

〔嬉遊笑覽禽蟲〕貞享四年發句合、續の原、桃青が判跋に判士よたりに乞て、我も其一に玄たがふ。またや樂にゑらるゝもの笛をぬすむに似たりといはむ。されども青鷺の目をぬひ、あふむの口を戸ざむ事あたはず云々、今水鳥屋にては鷺の目を縫ふなり。

〔倭名類聚抄羽族名〕鷄鵠。

唐韻云、鷄鵠、交青

鳥名也、辨色立成云、鷄鵠、伊住海邊、其鳴極喧者也、

〔箋注倭名類聚抄鳥名〕廣韻云、鵠、鷄鵠鳥也、音精、又云、鵠、鷄鵠鶴鳥、出南海、音青、二音、其義不同、此以青音鷄鵠恐誤、吳都賦注、鷄鵠鳥也似鳬頭上總毛羽、○中廣韻云、鷄、鷄鵠鳥也、按爾雅、鷄、鷄鵠、注似鳬脚高、毛冠、太平御覽引異物志云、鷄鵠巢於高樹顛、生子未能飛、皆銜其母翼下地飲食、說文、駁駁、駮也、證類本草載陳藏器云、鷄鵠、水鳥似鴨綠衣、馴擾不去、出南方池澤、李時珍曰、似雞長喙好啄、其頂有紅毛如冠、翠巖碧斑、丹嘴青脰、養之可玩、邵晉涵曰、後世養鷄鵠者多於池渠、其物不詳、○中按諸書載鷄鵠雖水禽似非在海邊者、又不云其聲喧噪、辨色立成所言伊微、恐非鷄鵠也、

〔庖厨備用倭名本草十水禽〕鷄鵠。

倭名抄ニイビ、多識篇或云アヲサギ、考本草水鳥也、南方ノ池澤ニ出ル、鴨ニ似テ綠衣ナリ、人家ニ是ヲ畜フ、ナレテ去ルコトナシ、火災ヲ厭フベシ、李時珍曰、鷄鵠ハ大サ鳩鷺ノ如クニシテ、脚ノ高キコト鷄ニ似タリ、長喙ニシテ喙ム、其ノ頂ニ紅毛アリテ冠ノ如シ、翠巖碧斑、丹嘴青脰、是ヲヤシナヒテ玩ブベシ、元升曰、余長崎ニヲイテ、大明人持來シ鳥ヲミルコトアリシニ、形色本草註ノ如キアリ、是鷄鵠ナランカ、其名ヲシラズ、倭名抄、多識篇ハ、本草註ト同ジカラズ、猶タヅヌベシ、

〔雍州府志六土產〕鷄鵠。

倭俗所謂青鷺也、并白鷺五位鷺所々捉之、於魚店賣之、○中一說中華所謂鷄鵠、本朝所有之五位鷺也、

〔重修本草綱目啓蒙三十二〕鷄鵠。

○中

旋目ハホシゴイナリ、○中又一種ボンノウサギ、一名ヨシゴイ、同名ムマヲヒドリ仙モ亦旋目ノ